

令和8年度 第1回名取市中小企業・小規模企業振興会議 会議録

開催日時	令和8年8月4日（火）午前10時～午前11時15分
開催場所	名取市商工会2階大会議室
出席者	洞口委員、庄子委員、赤間委員、藤井委員、小島（哲）委員、奈良委員、小島（隆）委員、葛原委員、赤坂委員
欠席者	大沼委員
事務局	小松生活経済部長、守商工観光課長、越河主幹兼商工振興・雇用促進係長、片桐主査
公開・非公開の別 （非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	0人

開会前、委員就任者（10名）への委嘱状交付式を挙行（渋谷副市長出席）

- 1 開 会
- 2 挨拶 渋谷副市長（会長選出後、公務のため退席）
- 3 会長選出
立候補・推薦の発言がなく、次のとおり事務局案を提出
会長：洞口委員
事務局案に対する異議の発言がないことから、案のとおり選任された。
- 4 副会長選出
立候補・推薦の発言がなく、次のとおり事務局案を提出
副会長：小島（哲）委員
事務局案に対する異議の発言がないことから、案のとおり選任された。
- 5 会議の記録方法
委員名を除いた要点筆記とすることについて諮り、了承を得た。
- 6 議 題
（1）令和7年度名取市中小企業・小規模企業振興施策の実施結果について
事務局より、資料1に基づき施策の実施状況について説明。
事務局説明後、会長より資料1について委員からの意見・質疑を求めた。

資料1 2ページ：No.1 事業継続力強化計画策定支援事業、No.2 プロフェッショナル人材活用支援事業

- (委員) 事業継続力強化計画認定後、「3年ごとの見直し(継続審査)」に関する通知が届いた。この通知はどこから発出されたものか。また、今後も3年ごとに更新の手続きが続くものか。
- (事務局) 通知は国から出されたものと思われる。事業継続力強化計画については、国の制度上3年ごとの見直しが求められている。ただし、見直しを実施するかどうかの判断は事業者委ねられているが、継続力強化の観点からは見直しを行うことが有効とされている。
- (委員) プロフェッショナル人材活用支援事業の実績が3件であったが、事業の予算枠自体が3件なのか。同事業の活用を検討している事業者は他にも多くいてニーズが高いと感じており、需要に応じて枠を拡大できないか検討してほしい。
- (事務局) 事業の予算枠として3件である。事務局としても、事業者からのニーズが高いことは把握している。今後は事業者からの声も踏まえながら、件数等について検討をしていきたい。

資料1 3～4ページ：No.3 チャレンジショップ事業、No.4 空き店舗活用支援事業、No.5 海外販路開拓支援事業

- (委員) 名取駅東口地区の中心市街地では、経営者のほぼ全員が「自分の代で廃業」の意向であることを確認している。震災を機に中断した東口地区の賑わい再生の取組は、市の計画にも位置付けられているが進んでいないと感じる。当事業を、個店単位ではなく東口地区の面的な活性化に集中的に活用できるようにできないか。
- (事務局) 当事業は個別店舗の空き店舗解消を目的とした制度であり、現時点では中心市街地を対象とした面的な取組への活用は難しいと考えている。
- (委員) この中心市街地の課題を、商工観光課のみの問題とせず、市全体で対応できないか。
- (事務局) 名取駅東口地区の賑わい再生については、指摘のとおり進捗が十分に見えていない部分があることは認識している。担当課だけでなく庁内の関係各課とも連携し、機会を捉えて市全体で進めていきたい。
- (会長) 当事業を進める前提として、中心市街地は店舗兼住宅が多く、上下水道が住宅側に敷設されており、創業・出店希望者がこれら店舗を活用するためには、店舗側にも上下水道を敷設する必要がある。その点も含めて対応を検討してほしい。

資料1 5～6ページ：No.6出張ハローワーク、No.7高校生向け企業説明会、No.8
インターンシップ活用支援事業

- (委員) インターンシップを経て実際の就職に繋がった実績があれば教えてほしい。
- (事務局) 現時点でそこまでの実績は把握していない。
- (委員) 大学側でも実績を把握できるよう協力していきたい。インターンシップは学生の地元定着にもつながる重要な取組であるため、今後とも当事業を実施してほしい。
- (委員) インターンシップを経由して当該企業へ就職する割合は比較的高い傾向にある。今後もこのように企業側にもPRできるような機会を用意してもらえるとありがたい。
- (事務局) 教育機関のインターンシップ制度をより多くの事業者を知っていただけるよう、当事業の周知の工夫をしていきたい。

資料1 6ページ：No.9中小企業振興資金融資

- (委員) 中東情勢や金利上昇の局面にあり、金利がさらに上がる前に融資を利用しておきたいという事業者からの相談が増えている実感がある。今年度、利率の引き上げがあり、今後も上昇の可能性はあると思うが、今時点では当融資制度に魅力を感じて利用している事業者が多いと感じている。

資料1 7ページ：No.10産学官連携等促進事業

- (委員) 新商品を実際に市場で売れる商品に育てるまでには多くの課題がある。今回商品化できたせりドレスシングのように、価格が高めでも生産が追いつかないほどの引き合いを得た商品が生まれたことは良い成果である。こうした取組が今後も継続的に展開されることを期待している。
- (委員) 以前は、外部の専門家を招き、商店や企業に対して新商品開発等の助言を行う仕組みがあった。そのような専門家によるアドバイス体制を改めて構築できないか。
- (事務局) 商品開発等の課題を抱える事業者に対しては、事務局から個別に働きかけを行い、教育機関等に繋ぐ取組を進めていきたい。
- (会長) 新商品が完成した際には、試食会等を開催し、一般消費者や商工関係者から意見を得ながら、さらに商品を磨き上げていく取組があってもよいと考える。
- (委員) 大掛かりな事業でなくとも、例えば飲食店のメニュー開発に学生が参加するような取組であれば実施しやすい。関心のある企業があれば大学へ声をかけてほしい。
- (委員) 事業者から挙げられている課題は商品開発やメニュー開発が中心か。それとも技術的な課題を抱えている事業者もあるのか。

(事務局) 現時点では商品開発等に関する相談が中心であり、技術的な課題についての声は把握していない。

(2) プロフェッショナル人材活用支援事業の補助対象要件の整理について
事務局より、資料2・3に基づき説明。

事務局説明後、会長より資料2・3について委員からの意見・質疑を求めた。

(会長) 令和7年度の実施結果の際にも委員から声があったとおり、本年度は予算の利用枠が早期に埋まってしまった状況であるため、予算の枠の拡大を検討いただきたい。

(3) マル経融資に対する利子補給制度の創設にかかる要望について
事務局より、資料4に基づき説明。

事務局説明後、会長より資料4について委員からの意見・質疑を求めた。

(委員) マル経融資と振興資金制度のバランスが取れていると良いとは考えていた。

(委員) 今後の金利見通しについて、9～10月頃に金利が上昇するとの見方が金融機関としてある。事業者にとって厳しい状況が想定されるため、振興資金とのバランスを取りつつ、マル経融資の利子補給等の対応を検討してほしい。

(委員) 事業者にとっては非常にプラスとなる制度と考える一方、金融機関の立場から見ると、市の振興資金制度と競合する面もある。マル経融資の方が過度に有利な制度となると振興資金制度の利用率が低下する懸念もあるため、バランスをとった制度設計をお願いしたい。

(会長) 市の振興資金制度とのバランスを踏まえ、マル経融資の利子補給期間や金利補給割合について検討をお願いしたい。物価高騰の中で運転資金の確保に苦慮している事業者が多いため、利子補給制度の創設についてあらためて協力をお願いしたい。

6 その他 なとりコイン事業について

事務局より、資料5に基づき説明を行った。

- ・ネイティブアプリのリリース
- ・なとりコイン2周年キャンペーンの実施

7 閉 会

以 上